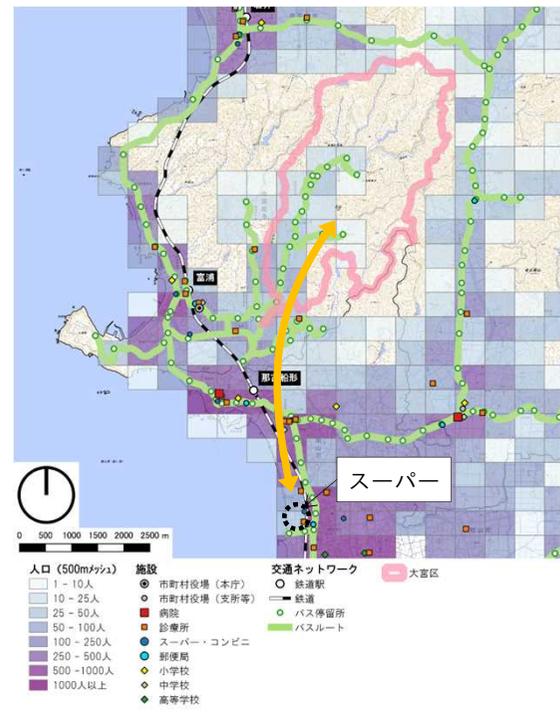


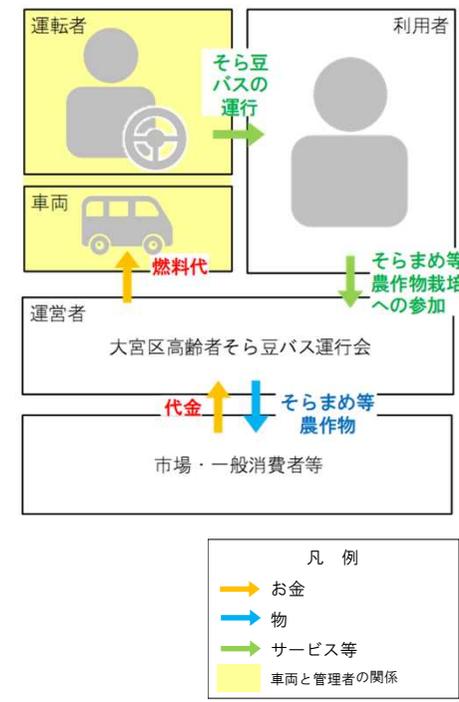
背景	<ul style="list-style-type: none"> ・ 富浦町大宮区は、山間地に位置し、2012年に地区内の商店が消滅 ・ S59年に民間路線バス廃止（旧八束線）その後は町営バスが運行していたが、富浦町内を運行する市営バスの運行本数は少なく、隣接する館山市には、乗り換えが必要となるなど交通の便が悪く、車を運転しない高齢者は買い物が困難になっていた。また、行政に頼りすぎない地域内の前期高齢者が後期高齢者を支える仕組みづくりの取り組みの一つ。
運行	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の高齢者が無償で借り上げた耕作放棄地で育てたそら豆等の売上で、月2回隣接市のスーパーへ買い物に行くバスを運行
経緯	<ul style="list-style-type: none"> ・ 平成26年2月：有志による実証運行開始 ・ 平成28年～平成29年：地域力を育むモデル事業を活用して取り組む ・ 平成30年～：自主運行（行政の財政支援なし）



■交通ネットワーク



■費用負担



■取組のポイント

地域の交通体系における役割

- 行き先が路線バスの運行ルートと重複しないように配慮
- 高齢者の外出の機会を作り、交通需要を創出
- そら豆等の売上の範囲内で可能な運行計画を策定

- 利用者特性への配慮
- 地区は広く、長距離の歩行が困難な高齢者も多いため、民生委員が同乗し、見守りも兼ね、当日は利用しない方も含め全会員の自宅を訪問

関係者の役割分担

- 検討の進め方
- 住民組織が単独で開始した取組を、南房総市「地域力を育むモデル事業」を活用して取組をバックアップ
 - 南房総市は、住民組織への助言等や交通事業者や運輸局への説明を実施

- 経費等の負担
- 大宮区内の耕作放棄地を無償で借り、そら豆等を栽培し、売上から種苗代を引いた残額をバスのガソリン代に充当
 - そらまめ等の栽培には、そら豆バスの利用者となる高齢者も、体力に応じた作業を分担しており、利用者もバスの運行に貢献

地域住民の参加

- 安全・安心の確保
- 講習会や制度理解の場を設けた

■運行概要

運営主体	大宮区高齢者そら豆バス運行会		
運行形態	特定目的型	車両	運転者のマイカー
運行ルート・エリア	・ 利用者の自宅～隣接する館山市のスーパー～診療所、足湯～利用者の自宅		
運行日・回数等	・ 月に2回、スーパーの高齢者の割引日に合わせて運行		
運転者	大宮区高齢者そら豆バス運行会員 21名 (H30.12時点)		
利用者	※会員のうち2名が運転者を務める		
利用方法	運行予定の案内を会員宅に配布し、利用の意向を確認	金銭收受	なし
利用者数	—		